



涌小通信

知内町立涌元小学校
～重点教育目標～
主体的・対話的に学び、
自らを磨き、高め合う子
令和元年9月30日発行

指導（ティーチング）と 集団活動の促進（※ファシリテーション）へ

～教師の役割の変容と授業改善の取組～

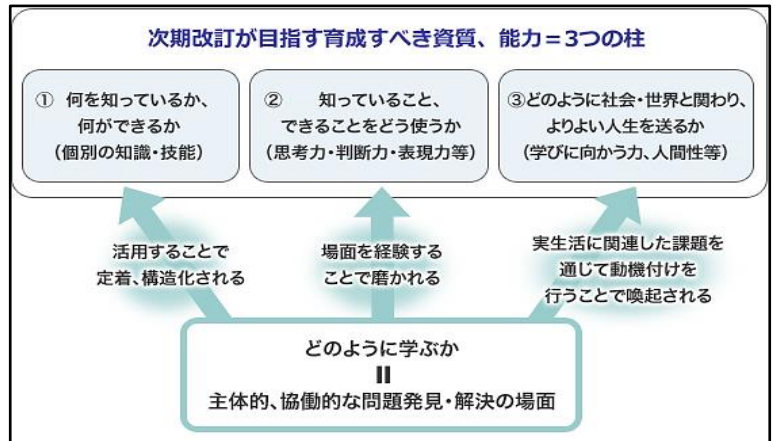
校長 三上 幸喜

令和元年の「全国学力・学習状況調査」の結果が各学校に通知され、各学校においては分析を進め、自校の課題を把握するとともに、授業の改善が進められています。本校においては、国語科では全国平均とほぼ同等、算数科においては全国平均を下回る結果となりました。今年度の結果の詳細につきましては別紙を参照ください。

職員室内の会話では、「単元テストやドリル等では、ほぼ8割以上の点数をとっているんだけど…」という声が聞かれました。「単元テスト」と「全国学力・学習状況調査」の目的が異なりますので、当然のように問題の形式が大きく異なり、結果も違ってきます。

また、*学習指導要領が10年ぶりに改定され、小学校では来年度から新学習指導要領が完全実施されます。「全国学力・学習状況調査」の結果の分析や新学習指導要領の改訂の趣旨から、日常の学習をどのように工夫・改善していかなければならないのかが各校で研究、検証されています。

涌元小学校では、これまで通り知識・技能の習得を大切にしながら、身に付けた資質・能力を実生活で生かしていくことができるようにしていきます。



＜内田洋行教育総合研究所資料より＞

＜涌元小の授業改善＞

＜学習の見通しをもたせる＞

- 学習のめあてを提示し、その時間に学習すべき内容を確認し、課題の解決に向けての見通しをもたせる。

＜わかる授業の展開＞

- 学ぶ楽しさ、できる喜びを実感することができる「わかる授業」を展開する。

＜問題解決的な学習の実施＞

- 問題解決的な学習を全校で実施する。
- めあて・よそ・たしかめ・まとめを提示し、問題解決の流れを身に付けさせる。

＜読む活動の充実＞

- 教科書等を一定の早さで読ませ、おおよその内容を読み取らせる。
- 朝読書や家読書等を通して、読書の習慣を定着させながら本を読む力を高める。

＜教材の提示の工夫や見える化＞

- 実物投影機を使って教科書やノートを大型テレビに映し出し、課題を確実に把握させる。見える化する。
- 言葉だけでなく、絵や写真で見える化する。

＜ICT機器の活用＞

- タブレット等を活用しながら、必要な情報を集めたり、発表するために、自分の考えや意見、説明をまとめたりする。

＜書く活動の充実＞

- 自分の考えや意見、説明を所要時間や文字数を指定して書かせる。
- 複数の資料から必要な情報を選択させ、文字数やキーワードを指定して書かせる。

＜話し合い活動の充実＞

- 話し合いの目的を明確にしなが、友達と協働して課題を解決する力を身に付けさせる。
- 相手の考えや意見に傾聴する態度や、自分の考えをより良くしていこうとする態度を育てる。

＜家庭学習の習慣の徹底＞

- 宿題や家庭学習の指導により、家庭での学習習慣の定着を図る。
- 強調週間等を通して、友達の良い所を認め、家庭学習への意欲を高める。
- 「学年×10分+10分」の徹底。

＜学習指導要領とは＞

- ・全国どこの学校でも一定の教育水準を保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準。全国どこの学校でも学習指導要領に基づいて、児童生徒への指導が行われます。（幼・小・中・高にそれぞれあります。）

＜ファシリテーションとは＞

- ・会議やプロジェクトなどの集団活動がスムーズに進むように、また成果が上がるように支援すること。質問によって参加者の意見を引き出したり、合意に向けて論点を整理したりすること。